

令和6年12月22日「令和5年7月豪雨災害の原因及び対策に関する説明会 議事概要（主な質問及び回答）」

番号	ご質問の主旨	説明会での回答
1	ポンプの増強は川尻水門と別に増強するということなのか。	ポンプの増強は川尻雨水ポンプ場の増強となります。同ポンプ場までの断面が狭くなっている箇所にポンプを設置する予定はありません。
2	床上浸水や床下浸水の被害状況は、どれぐらい調べて資料に反映してあるのか。	被害状況については、罹災証明書の発行データを反映しています。細かい部分で実際の被害状況と異なる部分があるかもしれませんが、その点についてはご容赦願います。
3	八反田川の津幡川への接続部は繋がっているのか。別紙資料4ページは繋がっているような記載になっている。	八反田川の津幡川への接続部は、普段閉まっていて雨水を排水することはありません。メンテナンスのために開けることはありますが、実際には繋がっておりませんので、ご指摘の通り資料の誤りです。
4	今後、ポンプを1台増設すると、80ミリ以上の降雨の際にはR5年7月豪雨のような状況を免れることができるのか。	雨水施設整備の基準降雨が50ミリとなっておりますので、50ミリ以上の降雨の際は溢れる可能性があります。
5	ポンプの増設はもう少し早くならないのか。	八反田川については民地の関係もあり、川幅を大きくする対策は困難であると思われます。ポンプについては、現在の設計上、60ミリの降雨には対応できる計画です。また、ポンプの製造には14か月の期間が必要になりますので、設置には2年ほどの期間を要することとなります。
6	現状の対策は、川尻雨水ポンプ場のポンプ増設しか予定していないのか。	抜本的な対策としては、川尻雨水ポンプ場のポンプ増設になります。検証業務で報告される対策内容を踏まえ、効果の高い対策を考えてまいります。また、行政の管路等の整備には限界がありますので、私有地での浸水対策に関する補助制度を考えております。
7	総門川の対策はどうなっているのか。総門川は下水道事業の規格に見合った内容になっているのか。	総門川については、河川の浚渫を実施しており、検証内容を踏まえて対策を考えてまいります。改修については多くの時間を要することになるかと思われます。
8	災害が発生しそうな時には行政から緊急の連絡が欲しい。	今年の9月からメール配信サービスを更新し、防災情報の一斉配信が可能となりました。また、防災行政無線を積極的に活用するとともに、防災情報をできるだけ早急に伝達できるような体制にしていきたいと考えております。
9	短期と中長期に分けて対策を実施して欲しい。今回の説明会の議事録は公開するのか。	短期の対策はポンプの増設となりまして、中長期の対策は検証結果を踏まえて考えてまいります。議事録の公開について、議事録を全て公開することはありませんが、抜粋して公開する予定です。

10	発災時には電気系統が使用できずインターネットを閲覧できないため、防災情報の発信等はアナログな手法で伝達して欲しい。	有事の際は、職員が現地に向かい情報を伝達することが困難な場合も考えられます。その際は、行政として速やかな情報発信に努めますので、隣近所等での情報を共有いただく等のご協力をお願いいたします。
11	有事の際は消防のサイレンを鳴らして欲しい。以前から清水丘陵線に上がる非常階段を作って欲しいとお願いしている。八反田川の水位が上昇した際に警報を発令できないのか。川尻水門を開けて津幡川の水位を下げることはできないのか。	R5年7月豪雨の際は、川尻水門を開けていたと聞いており、津幡川の河川管理者に対しては、水門の管理者に適切な情報発信を実施するよう依頼しております。
12	R5年7月豪雨の際は、川尻水門は開いていたのか。	そのように聞いております。河川管理者から水門管理者に対し、速やかに連絡を行ったと聞いております。
13	発災時に職員は速やかに現地確認を行って欲しい。	土木施設等の現地確認は行っておりますが、被災箇所を現地確認する配慮も必要だったと感じております。
14	川尻水門が開いていたことを考慮すると、川尻雨水ポンプ場にポンプを増設しても意味がないのではないのか。	八反田川については、津幡川の水位が上がるとゲートで遮断しポンプで強制的に排水しております。
15	川尻水門を開けていた記録を公開できないのか。	津幡土木事務所や川尻水門の管理者に確認します。 【追記】水門管理者に確認したところ、当時、水門は開いていましたが、開門時間等の詳細は不明であると聞いております。
16	既存のポンプの改修は検討していないのか。	中長期的には改修も考えられますが、短期の対応としてポンプ増設を予定しております。
17	ポンプ増設を実施しても80ミリの降雨には対応できないのか。	八反田川の改修を実施しなければ80ミリの降雨には対応できないと思われます。しかし、ポンプ増設によって住民の方の避難する時間が増えることが考えられます。
18	緊急時に津幡川の水位を下げることはできないのか。	豪雨等により津幡川の水位上昇が予想される際には、川尻水門管理者は注意し水門の操作を行っていると思われます。
19	総門川のJRの線路横断部に関するJRとの協議の進捗状況はどうなっているのか。	事業費の問題もあり、進展しておりません。
20	短期の対策としてはポンプ増設のみか。また、今後、R5年7月豪雨と同じ量の雨が降った際には、同じような被害が発生するのか。	ポンプ増強によって60ミリの降雨までは対応可能であると考えられます。浸水被害の件数は皆無にはなりませんが、R5年7月豪雨の被害件数よりは減ると予想されます。